



TITLE:

資料紹介:Cumulative Book Index; a world list of books in the English language, 1898-1965. N. Y., Wilson

AUTHOR(S):

CITATION:

資料紹介:Cumulative Book Index; a world list of books in the English language, 1898-1965. N. Y., Wilson. 静脩 1965, 2(3): 4-4

ISSUE DATE:

1965-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36292>

RIGHT:

○ Cumulative Book Index; a world list of books in the English language. 1898-1965. N. Y., Wilson.

最初は United States Catalog (合衆国出版目録) として著者名リストと書名リストの2冊を出版したのであるが、後に版をあらため、著者名、件名、書名の三つから検索できる辞書体目録にあらためられた。4版の United States Catalog は1928年以前に合衆国で出版された図書の目録であるが以後改名して Cumulative Book Index となった。Cumulative Book Index に改名してからは副書名のとおりに英語で書かれた図書の世界的図書出版目録(政府刊行物は除く)であって United States Catalog のサプリメントとなっている。そして7, 8, 12月を除いて毎月定期的に累積して出版されている。この毎月出版されたものは更に、半年刊に、半年刊は、年刊に、年刊は2年分をひとまとめに、2年分累積した刊は最後には決定刊として5年ごとにまとめられ使い易くされている。この図書出版目録は、著者名、件名、書名の三つをアルファベット順に排列しているので使用者は目指す図書の著者名から、編者から、訳者から、書名から、又は件名(主題)から通常の辞典と同じように索引できる。もしある主題、例えば遺伝についてどんな図書が発行されたかを知らうとするときは、Genetics を検索すればそこに遺伝について書かれた書物を発見することができ、更に Eugenics, Variation (biology) を見よとの参照が付けられていて関係分野の図書をも知ることができ一層便利さを増している。主題から検索できることにより、伝記、作家研究の場合、被伝者や研究の対象となった作家名からも検索でき、更に国際会議、シンポジウム等の報告書は正式な会合名の記憶がなくても会合で取り扱われた主題より検索できる等便利である。記入事項は著者のフルネーム、完全書名、シリーズ名、版次、出版地、出版年、出版社、頁数、価格、その他簡単な注記がなされ、いずれも巻末には出版社の住所録もついており、その上に月刊で速報性もあり、最終的には5年分が累積されているので過去何年間かをまとめて知る場合の検索の手間をもはぶける等々から英語で書かれた文献の調査には欠くことのできぬ書誌であり、また目録作成の補助者として、さらに図書購入時の参考としても使用されている。附属図書館では

* United States Catalog. 4th ed. Ed. by Mary Burnham. N. Y., Wilson, 1928.

* ---- [Supplement] Cumulative Book Index; a world list of Book in the English language. N. Y., Wilson.

1928-32, 1933-37, 1938-42, 1943-48, 1949-52, 1953-56, 1957-58, 1959-60,

1961-62, 1963, 1964, Jan.1965-June 1965 を所蔵しており今後も継続して購入される。

○ 鈴木豹軒文庫

本文庫は文学部元名誉教授故鈴木虎雄博士の蔵書である。鈴木博士は明治41年より文学部において中国文学の講座を担当され、昭和13年退官、名誉教授になられた後も研究を継続され、日本学士院会員となり、昭和36年には文化勲章を授けられた我が国中国文学研究の最高権威であった。したがってその蔵書も博士の鑑識によって精選された図書である。文学部では、これら博士の蔵書のうち1部は昭和28年に購入したが、昭和38年逝去されたので、今回この貴重な蔵書6,991部を譲り受けたものである。

この中には「明刊本文選六十巻」「明刊本呉正子註」「李長吉歌詩四卷外集一卷」など16世紀以前に出版されたいわゆる善本も多数含まれており、それらはほとんど天下の孤本ともいふべきものである。この蔵書中には博士の所説が書きこまれた図書も多く、今後中国文学、中国哲学研究者には研究を深める上にも図書とともに重要な役割を果たすであろう。